

**エローヒムの降臨** (2016年12月29日、2018年2月13日収録) 担当:石田昭 2021年9月25日

- 1 まえがき: 地球神エル・カンターレは、3億数千年前「アルファ」名で下生時、創造神・造物主の使命を遂行。二回目降臨(1億5千万年前)で善悪・正義・慈悲などを示した。
- 2 **第1章**: 旧約聖書等に「ヤハウェ文献」「エローヒム文献」があり、混同されてイエスの迫害に繋がった。エローヒムはイエスが父と呼んだ神。ヤハウェは怒りや妬みの民族神。
- 3 · エロヒムは9次元神とは格段の違いがあり、10次元以上の「地球創出」意識を持つ。
- 4 靈言: のときには「産めよ、増やせよ、地に満てよ」地球に住むことを中心に、宇宙から人類の始祖に当たる宇宙人も入ってきた。「地球的に何を選び取るか」が必要になった。
- 5 その前に、一緒に住めない者が水平的に国別・民族別という住み分けが起きた。また、人間として一定レベルに達しない者が垂直的な住み分けをして、後に地獄的存在になった。
- 6 当時レブの二分化が激しかった。退化した者: 凶暴性が強く、巨大化して恐竜に、退化しなかった者: 人間性は維持したが、他を犠牲にして繁栄する傾向の人類の始祖になった。
- 7 彼らは、地球生まれの人類型創造物と掛け合わせて、地球に適応性のある肉体を作った。
- 8 こうした退化した生き物の元の姿が現在ある動物の原型である。トカゲ、海老、鯨、象 etc
- 9 当時は温暖な気候で大きなサイズもいたので、捕食される者は身を護る「恐怖心を克服する知恵」を発達させた。恐怖心のまま捕食されると不成仏感“無念の思い”で地獄化。
- 10 宇宙から飛來したものは科学技術が進んでいたが、地球環境にはすぐには適応できず、宇宙服スーツも着用した。グレイなども使役した。Elohimの宮殿はピラミッド型。
- 11 予想外の宇宙人からの来襲もあったので、地下シェルター機能もあった。賑わっていた。
- 12 文明実験として自由に受け入れていたが、「どういう種族・民族になるのか」を固めないと混乱するので、場所の住み分けも考えた。動物も魚も豊富だったが、「農耕」も始まっていた。
- 13 マゼランから最初に呼んだレブは温和だったが、滅亡時の残留組が地球に逃れてきた。
- 14 もう一つはケンタウロス系で二派があり、系は温和、系は科学者特有の冷徹さがあった。非温和系レブの“人類を食料として捕食する”考え方を改心させるのに困った。
- 15 後から来たマゼラン系やケンタウロス系の「食人的思考」は今もいっぱい存在する。
- 16 地球的知恵や正義のルーツ: ブレアデスは美・調和・繁栄の「自我文明」。ベガは周囲との調和を追及する「無我文明」。両者が中心で、他のものは「同化」するのが基本的姿勢。
- 17 地球防衛の任に就いた三つの義勇軍には、ベガと関係ある部隊と、アンドロメダに関する部隊、イエスを中心する天使団があった。目的は 獣獣型レブ ゲーム感覚殺人レブから防衛し、「調和して繁栄する」ことが課題だった。宇宙の悪役とは、「腐敗菌的」「新陳代謝」の役割を果たしている。宇宙全体から見れば、今地球はその時を迎えている。トランプ復活の情報(25日マリコバ結果報道)。一方で、イワン雷帝の靈言: 悲観的これから世界は漂流する?主の煙幕?
- 18 **第2章**: 肉体を持つと靈的に低下、元の場所に帰れないリスクが高い。この頃に主従(天地)の逆転が起き始めた。3千万年後にルシフェルが地獄に落ちた。「心解脱」の修行が大切。
- 19 地上浄化、ゼロに戻すには「天変地異」と、「救世主による説得」とある。今地上は「神の世界」よりも「悪魔の世界」に近い。カント(メルケル)以来の地上第一主義が跋扈している。
- 20 カンダハールは戦死者など不成仏靈が繋がって裏宇宙を構成した。肉体を持てないので「まず動物から始よ」となる。人口増は動物からの進化もかなりある。大陸人の嘘吐き気質。
- 21 地球人口は100億が限界。「神の僕」以外の者を減ずる必要がある。大陸沈没なども。アトランティスやムーが滅んだ本当の理由を調べたほうがいい。悪想念と地震爆発論の接点。